



# 柏市動物共生未来ビジョン検討懇談会 第2回資料



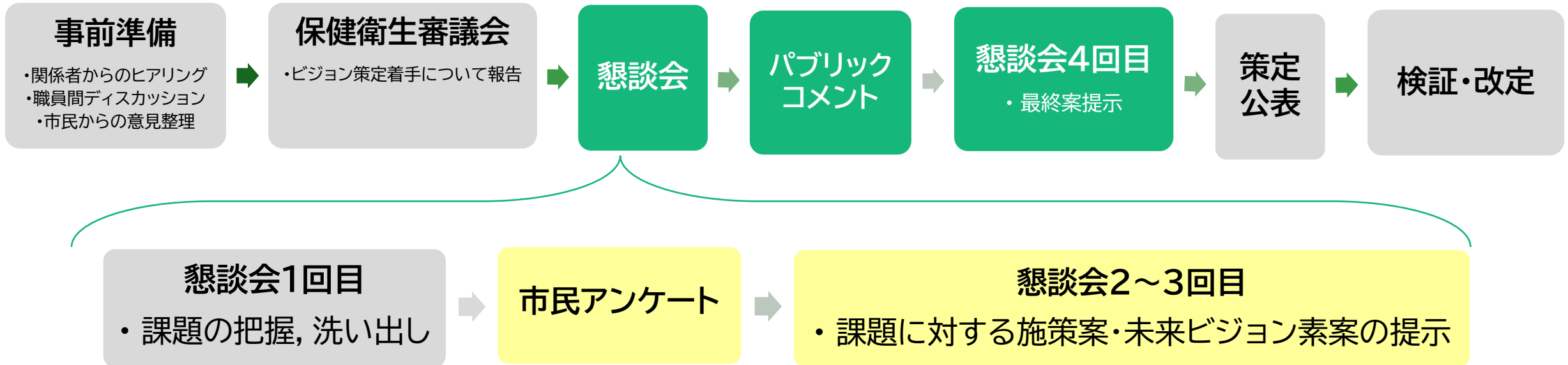
# 懇談会の趣旨と会の流れ



## ● 懇談会の趣旨

当懇談会では、さまざまなお立場で動物に関わる皆様から、専門的なご意見、また、多様な視点でのご意見をうかがい、柏市独自の動物愛護管理推進計画を策定し、より計画的に柏市の動物愛護施策を推進したいと考えております。

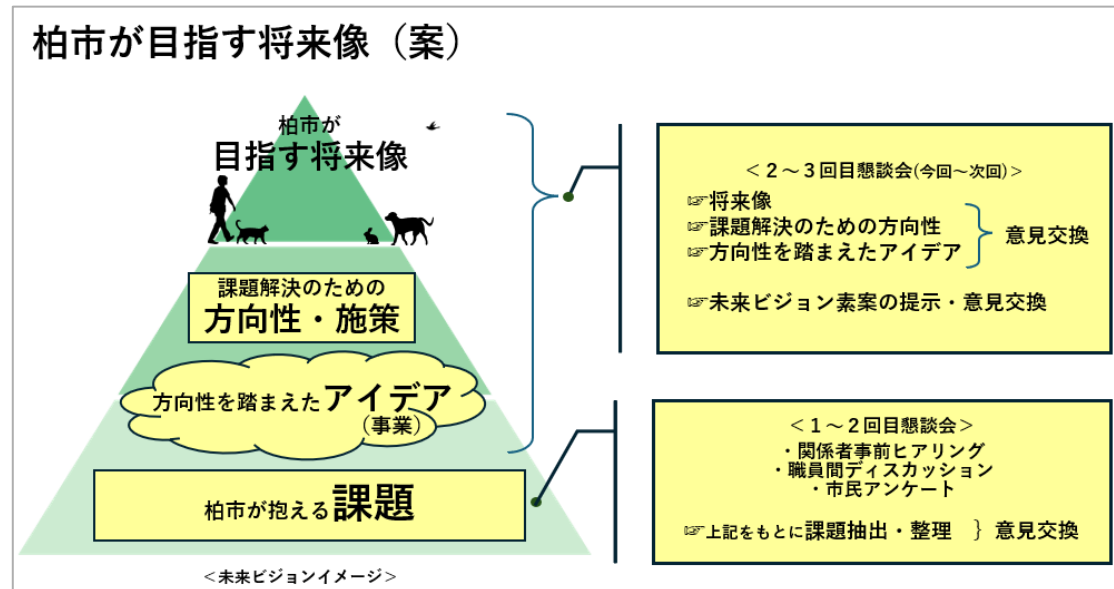
## ● 懇談会の流れ



# 本日の内容（次第）



1. 市民アンケート実施報告
2. 未来ビジョンの構成イメージと目指す将来像
3. 意見交換
4. 市民アンケートの結果を踏まえた課題の再整理と課題解決のための方向性
5. 意見交換
6. 方向性を踏まえたアイデア出し
7. 意見交換
8. 次回以降の予定等





# 1 市民アンケート実施報告

別添資料参照



※令和8年1月30日時点

- 01 アンケートの目的・実施方法等
- 02 アンケート集計結果



## 2 未来ビジョンの構成イメージと目指す将来像

---

# 柏市が目指す将来像（案）



## 柏市が 目指す将来像



課題解決のための  
方向性・施策

方向性を踏まえたアイデア  
(事業)

柏市が抱える課題

<未来ビジョンイメージ>

< 2～3回目懇談会(今回～次回) >

- 👉 将来像
  - 👉 課題解決のための方向性
  - 👉 方向性を踏まえたアイデア
- } 意見交換
- 👉 未来ビジョン素案の提示・意見交換

< 1～2回目懇談会 >

- ・ 関係者事前ヒアリング
  - ・ 職員間ディスカッション
  - ・ 市民アンケート
  - ・ 課題抽出・整理
- } 意見交換

# 柏市が目指す将来像（案）



## 計画策定にあたっての基本的な考え方

未来ビジョンは、『動物の愛護及び管理に関する法律（以下「動愛法」と言う。）』はもとより、『動物の愛護及び管理に関する施策を総合的に推進するための基本的な指針』や『千葉県動物愛護管理推進計画』との整合を図りつつ、『柏市第六次総合計画』の基本的な目標である「もっと、居心地のよいまちへ」の実現等を踏まえ、動物愛護に関わる方、市民のみなさまにご意見をうかがいながら、柏市独自の動物愛護に関する将来像を具現化できるものとしてとりまとめたいと考えております。



柏市 KASHIWA CITY

3

柏市動物共生未来ビジョン検討懇談会第1回資料より

## 柏市第六次総合計画（R7年3月）

### 将来の姿

柏に関わる一人ひとりが思いを実現できるまち  
～多様な価値や人々がつながり、新たな価値の創造に挑戦～

### 基本的な目標

1. **もっと、** 創造的なまちへ
2. **もっと、** 居心地のよいまちへ
3. **もっと、** 地域の個性が輝くまちへ

# 柏市が目指す将来像（案）



柏市が掲げる**将来の姿**を実現するために達成すべき**基本的な目標**の一つである

もっと、

## 居心地のよいまちへ より

子どもからお年寄りまで、多様な人々がつながるコミュニティと様々な居場所がうまれることで、  
柏に住み、働き、学び、憩い、遊びに来る誰もが、  
健やかに育ち、安心して過ごし、年齢を重ねていくことができるまちを目指します。

### 将来像（案）

**“ひと”も“どうぶつ”も、ともに居心地よく暮らせるまち**

### サブテーマ（案）

～「ペットとともに生活したいまち・かしわ」を目指して～



### 3 意見交換

---

# いただきたいご意見の視点



✓将来像及びサブテーマ（案）へのご意見のほか、柏市が目指す将来像として「このような言葉をいれてはどうか」「このようなイメージはどうか」のように、キーワードの提案や、イメージの提案でも結構です。多様なご意見，アイデアをお聞かせください。

柏のまちは、  
こうありたい

誰かの新たな  
チャレンジを応援  
し、自らも挑戦し  
続けるまち

社会共通の課題  
の解決を目指す  
ことで、日本を、  
世界をリードして  
いくまち

どのライフステー  
ジにある人も希  
望を持って過ご  
せるまち

人々が安心感、  
充実感、満足感  
を得ながら暮ら  
せるまち

柏が持つ個性と柏に  
関わる人々がさら  
につながること  
で、これまで  
にない新たな価  
値が生まれるまち

みんなが想いを  
実現するきっか  
けをつかむこと  
ができるまち  
であれるよう  
に、住む人と  
だけでなく、  
柏に関わる  
すべての人  
とまちづく  
りを進めて  
いきたい

柏市第六次総合計画「将来の姿」～柏に関わる一人ひとりが想いを実現できるまち～多様な価値や人々がつながり、新たな価値の創造に挑戦～  
リード文より



## 4 市民アンケートの結果を踏まえた 課題の再整理と課題解決のための方向性

---

# 再整理した課題一覧



1. 人と動物の健康・安全
2. ボランティア・事業者・行政
3. 犬猫等を飼育する高齢者, さまざまな事情を抱える方
4. 防災体制
5. 犬猫等の不適切飼育, 餌やり
6. 動物愛護教育
- 7-1: 狂犬病予防法と所有者明示, -2: 動物取扱事業者, -3: 特定動物, -4: 動物由来感染症
8. センターのあり方

NEW

## 次ページ以降スライドの各項目について

### 課題まとめ

- 関係者事前ヒアリング結果(1回目懇談会資料より)
- 職員ディスカッション結果(1回目懇談会資料より)
- 1回目懇談会意見交換内容
- 市民アンケート結果**
- 1回目懇談会後の職員ディスカッションをもとに追加した内容

### 1. 人と動物の健康・安全

#### 課題まとめ

・センターが扱う動物に犬猫以外は含まないのか。  
・うさぎの多頭飼育崩壊の事例なども聞くが、対象動物を決めなければ相談があっても対応できないのではないか。  
・うさぎやハムスター、鳥など、犬猫以外の動物への市の取り組み方を検討すべき。  
・**Q3犬猫以外のは虫類、げっ歯類、うさぎ、鳥類、両生類を飼う人が約18%いる。**

・職員に動物福祉の概念、シェルターメディスンへの正しい理解が不足しているのではないか。  
・夜間を含む乳飲み猫の対策が不十分でないか。  
・動物福祉の考え方に基いた根拠ある動物管理ができていないか。

・安楽死を含めた殺処分に関する考え方が整理されていない。  
・殺処分をしないことによる、職員やボランティアの負担増とケア体制の不足。  
・殺処分ゼロ維持のための出口支援、対策の不足。  
・長期収容となる動物に対する備品や環境の整備が不十分でないか。  
・分類3（引取り後の死亡）を殺処分にカウントすることは問題ではないか。

・譲渡希望者が減少している。平日のみの開庁が譲渡推進の妨げになっていないか。  
・ボランティア頼みの現状があるのではないか。  
・センター主催による譲渡会が定期的に開催されていない。

・行政職員のマンパワー不足。  
・行政職員への教育機会の不足。  
・[再掲]行政職員への教育内容として、動物福祉の概念、シェルターメディスンへの正しい理解が不足しているのではないか。

#### 課題解決のための方向性(案)

本計画の対象動物

動物の健康と安全の確保

殺処分をしない柏市の継続

譲渡の促進

センターの人材育成の充実

14

### 方向性(案)

課題解決のための  
方向性(案)

# 1. 人と動物の健康・安全

## 課題まとめ

- ・センターが扱う動物に犬猫以外は含まないのか。
- ・うさぎの多頭飼育崩壊の事例なども聞くと、対象動物を決めなければ相談があっても対応できないのではないか。
- ・うさぎやハムスター、鳥など、犬猫以外の動物への市の取り組み方を検討すべき。
- ・**Q3犬猫以外のは虫類、げっ歯類、うさぎ、鳥類、両生類を飼う人が約18%いる。**

- ・職員に動物福祉の概念、シェルターメディスンへの正しい理解が不足しているのではないか。
- ・夜間を含む乳飲み猫の対策が不十分でないか。
- ・**動物福祉の考え方に基づいた根拠ある動物管理ができていないか。**

- ・安楽死を含めた殺処分に関する考え方が整理されていない。
- ・殺処分をしないことによる、職員やボランティアの負担増とケア体制の不足。
- ・殺処分ゼロ維持のための出口支援、対策の不足。
- ・長期収容となる動物に対する備品や環境の整備が不十分でないか。
- ・分類3（引取り後の死亡）を殺処分にカウントすることは問題ではないか。

- ・譲渡希望者が減少している。平日のみの開庁が譲渡推進の妨げになっていないか。
- ・ボランティア頼みの現状があるのではないか。
- ・センター主催による譲渡会が定期的には開催されていない。

- ・行政職員のマンパワー不足。
- ・行政職員への教育機会の不足。
- ・[再掲]行政職員への教育内容として、動物福祉の概念、シェルターメディスンへの正しい理解が不足しているのではないか。

## 課題解決のための方向性（案）

本計画の対象動物の  
明確化

動物の  
健康と安全の確保

殺処分を  
しない柏市の継続

譲渡の促進

センターの  
人材育成の充実

## 2. ボランティア (NPO, 市民活動団体を含む) ・ 事業者 ・ 行政

### 課題まとめ

- ・ ボランティアと行政との役割分担が曖昧。
- ・ ボランティア, 行政, 動物病院, 事業者など動物に関係する人や機関の連携が不足。

- ・ 活動が無償であることの経済的負担, 命を扱うことによる心身の負担がある
- ・ 施設整備や人員の問題を抱えていることもある。
- ・ 行政と, 動物に関係する人や機関の交流の場, コミュニケーションの場がない。
- ・ 柏市として提供するボランティアへの教育機会がない。
- ・ ボランティアへの心身, 福祉面のサポートがない

### 課題解決のための方向性 (案)

連携の推進

支援等の充実

# 3. 犬猫等を飼育する高齢者,さまざまな事情を抱える方

## 課題まとめ

- ・ 高齢者, 独居者の死亡や, 警察や児童相談所の探知により, 犬猫等が取り残されていることが判明する事例が増えている。
- ・ 高齢者による多頭飼育や不適切飼育などのケースが散見される。
- ・ やむを得ない事情 (入院, 拘留等) による先の見えない一時預かり相談の事例が増えている。
- ・ 動物飼育を希望する経済的・時間的に余裕のある高齢者の受け皿がない。
- ・ **Q19【ペットを飼っていない・飼うことを諦めた理由】について「自身が高齢である」と回答した方が約27%いる。**

- ・ 市役所福祉部門以外 (ボランティアや民間事業者など) との連携がされていない。
- ・ 市内部では, 個別事案ごとに連携対応しており, 制度化や予防的目線にたった効率的・計画的な対応体制は整っていない。

## 課題解決のための方向性 (案)

高齢者等が  
取り組みやすい  
適正飼育の推進

動物を飼育する高齢者等  
への福祉的支援の充実

# 4. 防災体制

## 課題まとめ

- ・飼い主の避難の方法は、個別ごとに多様であることが知られていない。
- ・Q6【ペットのための防災対策】について「特に備えは行っていない」と回答した飼い主が約23%いる。
- ・Q22【柏市が開設する全ての避難所にペットを連れて避難できることを知っていますか】との設問について「知らない」と回答した方が約85%いる。
- ・実際に災害が発生した際、市民はもちろん、センター、関係機関、動物関連事業者などがスムーズに動くことができる動物救護のための体制が整備されていない。
- ・関係者と「顔が見える関係」が出来ているのか。
- ・市が行うペット用備蓄品の在り方の検討が不十分。
- ・発災時のセンターの施設規模・設備（例：自家発電なし），人員体制が不十分
- ・マイクロチップ装着，備蓄等含め，平時からの準備が大切であることをもっと啓発するべき。
- ・柏市が作成するガイドラインの認知度が低すぎる。
- ・動物とその飼い主が参加する訓練の機会がない。
- ・避難所への同行・同伴避難の方法や避難所での受け入れ体制，運用方法が具体化されていない。
- ・Q15【飼っている猫へのマイクロチップ装着の有無】について「いいえ」と回答した方が約69%いる。

## 課題解決のための方向性（案）

自助の促進

共助の推進

公助の強化

## 5. 犬猫等の不適切飼育, 餌やり

### 課題まとめ

- ・犬猫の不適切飼育, 餌やりに関する苦情が多く, マンパワー不足もあり職員の精神的な負担を軽減する必要がある。
- ・適正飼育に関する計画的・効率的かつ効果的な情報提供ができていない。
- ・TNRを中心に活動するボランティアに大きな負担がかかっている。
- ・近年の過酷な猛暑の中外飼いされている犬がいる。
- ・咬傷事故件数が6年間ほぼ横ばいで有意な減少がみられない。
- ・犬猫を販売する第一種動物取扱事業者との連携がない。

・📎Q8【飼い犬のしつけの必要性】について「どちらかといえばそう思わない」「全く思わない」と回答した飼い主が約19%いる。

・📎Q9【飼い犬の排泄場所】を「公共の場（公園・道路など）」と回答した飼い主が全体の半数（50%）いる。

・📎Q24【犬による迷惑】は全体の半数(約50%), Q25【猫による迷惑】は全体の4割弱(約39%)の方が感じている

・📎Q21【柏市の地域猫登録制度】について「知らない」と回答した方が約88%いる。

### 課題解決のための方向性（案）

適正な飼育・管理の徹底

# 6. 動物愛護教育

## 課題まとめ

- ・ コロナ禍を機に愛護教室の開催回数，参加人数が減少傾向にある。
- ・ 人と動物との関わりについて学ぶ機会がない
- ・ 学校飼育動物も減り，動物を触ったこともない，見たこともないという子どもが多い。

- ・ 生体を使用した愛護教育ができない現状がある。
- ・ 生体を使用した愛護教育の妥当性の検証がされていない。
- ・ **センターが行う教室等について，長期的な目線に立った愛護教育ができていない。**

## 課題解決のための方向性（案）

教育機会の確保

教育内容の見直し

# 7-1. 狂犬病予防法及び所有者明示

## 課題まとめ

・ 畜犬登録台帳について、死亡未届、他自治体への転出に伴う登録変更手続きの未実施などで台帳情報の一部が不正確になっている。

・ **Q10【狂犬病予防法に基づく犬の登録】**について、「いいえ(していない)」「わからない」と回答した飼い主が約14.7%いる。

・ マイクロチップ装着義務化前から飼われている犬猫、事業者から入手した以外の犬猫（特に猫）を対象とした装着費用補助事業を開始したものの事業の利用率が向上しない。

・ **Q15【飼っている猫へのマイクロチップ装着】**について、「いいえ(装着していない)」「わからない」と回答した飼い主が約69%いる。

・ 狂犬病予防注射の実施率が向上しない。

・ **集合注射の利用率が全体の15%\***にとどまっている（令和6年度）。

※全体：16,180件 集合注射：2,441件 個別：13,739件

## 課題解決のための方向性（案）

狂犬病予防法に基づく  
登録の徹底

所有者明示、  
マイクロチップ装着の  
推進

狂犬病予防注射接種の  
徹底

## 7-2. 動物取扱事業者

### 課題まとめ

- ・現状の監視は、他の業務量の都合もあり、新規申請時・5年に1度の更新申請時・苦情等発生時に実施している。
- ・指導が長期化する事業者に対しては、計画的、効率的かつ効果的な監視・指導が必要である。

### 課題解決のための方向性（案）

動物取扱事業者の  
監督・指導の徹底

## 7-3. 特定動物

### 課題まとめ

- ・立ち入り頻度が低いため、飼養施設・飼養状況の把握が十分でない。
- ・災害時等に市内特定動物に起因する問題が発生しないよう、確認体制等の構築が必要。

### 課題解決のための方向性（案）

特定動物飼育者への  
監督・指導の徹底

## 7-4. 動物由来感染症

### 課題まとめ

- ・人獣共通感染症に関する周知が不足。

### 課題解決のための方向性（案）

動物由来感染症の  
周知・啓発の徹底

# 8. センターのあり方

## 課題まとめ

・ 市民に対するセンターの存在の周知が不足しているのではないか（委員実施の聞き取りで、センターの存在自体を認識していない方が7割いた）。

・ **Q20【柏市動物愛護ふれあいセンターを知っていますか？】という設問について「知らない」と回答した方は約64%いる。**

・ SNSの活用など多様な情報発信の方法があるが、センターにはそれが不足しているのではないか。

・ GCF（クラウドファンディング）で集まった基金の用途の公開について、改善の余地があるのではないか。

・ センターの施設機能が十分に活かされていない（例：フィールド、エントランスホールの上部スペース）

## 課題解決のための方向性（案）

認知度の向上

センター機能の強化

1. 人と動物の健康・安全

本計画の対象動物の明確化

動物の健康と安全の確保

殺処分をしない柏市の継続

譲渡の促進

センター職員の人材育成の充実

2. ボランティア・事業者・行政

連携の推進

支援等の充実

3. 犬猫等を飼育する高齢者，さまざまな事情を抱える方

高齢者等が取り組みやすい適正飼育の推進

動物を飼育する高齢者等への福祉的支援の充実

4. 防災体制

自助の促進

共助の推進

公助の強化

5. 犬猫等の不適切飼育，餌やり

適正な飼育・管理の徹底

6. 動物愛護教育

教育機会の確保

教育内容の見直し

7 -1狂犬病予防法と所有者明示／

7 -2動物取扱事業者／ 7 -3特定動物／ 7 -4動物由来感染症

8センターのあり方

認知度の向上

センター機能の強化



## 5 意見交換

---

# いただきたいご意見の視点



- ✓ 各課題の項目に応じた「課題解決のための方向性（案）」について、
- ①各課題を概ね網羅するような方向性（タイトル）になっているか、
  - ②その方向性のイメージが、委員皆様の課題解決のためのイメージとあっているか、
- などについて、ご意見をお聞かせください。

課題項目	課題解決のための方向性(案)
1. 人と動物の健康・安全	本計画の対象動物の明確化 動物の健康と安全の確保 殺処分をしない柏市の継続 譲渡の促進 センター職員の人材育成の充実
2. ボランティア・事業者・行政	連携の推進 支援等の充実
3. 犬猫等を飼育する高齢者、さまざまな事情を抱える方	高齢者等が取り組みやすい適正飼育の推進 動物を飼育する高齢者等への福祉的支援の充実
4. 防災体制	自助の促進 共助の推進 公助の強化
5. 犬猫等の不適切飼育、餌やり	適正な飼育・管理の徹底
6. 動物愛護教育	教育機会の確保 教育内容の見直し
7 -1狂犬病予防法と所有者明示/ 8センターのあり方	7-2動物取扱事業者／7-3特定動物／7-4動物由来感染症 認知度の向上 センター機能の強化



## 6 方向性を踏まえたアイデア出し

---

## 次ページ以降スライドの各項目について

### 方向性（案）

課題解決のための  
方向性(案)

### 課題解決のためのアイデア

1 回目懇談会資料及び意見交換並びに市民アンケート結果から  
課題解決のためのアイデア（解決策，要望等）を抽出

## 1. 人と動物の健康・安全

### 課題解決のための方向性（案）

本計画の対象動物の範囲の決定

動物の  
健康と安全の確保

殺処分を  
しない柏市の継続

譲渡の促進

センターの  
人材育成の充実

### 課題解決のためのアイデア

・犬猫以外の受入れの検討。  
・飼育が困難な動物について、相談先を整理し紹介できる体制を整備。

・「動物福祉」の考え方に基づいた動物の管理方法を導入。

・柏市犬・猫等の致死処分実施要領の改正について専門家を交え議論。  
・「安楽死」と「殺処分」の整理と言葉の使い分けの検討。  
・ボランティアがもつノウハウの共有。

・Q26【人と動物が住みやすい柏市を目指すため取り組んでほしいこと】  
について、「殺処分をしない取組の継続」と回答した方が約37%いる。

・高齢猫についてアットホーム事業(高齢者への一時預かり等)をより推進。  
・センターのPR。・土日開庁。・ボランティアや事業者、行政の連携推進。  
・柏市主催の譲渡会を継続的に実施。

・センター職員へのシェルターメディスンや動物福祉に関する教育プログラムの構築。・他機関の講座の積極利用。・マンパワー不足を積極的に補うための柏市独自の方針等作成。

# 1. 人と動物の健康・安全

## 課題解決のための方向性（案）

本計画の対象動物の明確化

動物の  
健康と安全の確保

殺処分を  
しない柏市の継続

譲渡の促進

センターの  
人材育成の充実

## 課題解決のためのアイデア

・犬猫以外の受入れの検討。

・「動物福祉」の考え方に基づいた動物の管理方法を導入。

・柏市犬・猫等の致死処分実施要領の改正について専門家を交え議論。  
・「安楽死」と「殺処分」の整理と言葉の使い分けの検討。  
・ボランティアがもつノウハウの共有。

・☞Q26【人と動物が住みやすい柏市を目指すため取り組んでほしいこと】について、「殺処分をしない取組の継続」と回答した方が約37%いる。

・高齢猫についてアットホーム事業(高齢者への一時預かり等)をより推進。  
・センターのPR。・土日開庁。・ボランティアや事業者、行政の連携推進。・柏市主催の譲渡会を継続的に実施。

・センター職員へのシェルターメディスンや動物福祉に関する教育プログラムの構築。・他機関の講座の積極利用。・マンパワー不足を積極的に補うための柏市独自の方針等作成。



<動物処置風景>



<譲渡時風景>

## 2. ボランティア (NPO, 市民活動団体を含む) ・ 事業者 ・ 行政

### 課題解決のための方向性 (案)

#### 連携の推進

### 課題解決のためのアイデア

- ・ 固い組織でなく、サロンの話しやすく気軽に議論できる機会の確保。
- ・ 行政とボランティアの役割を明確にしたうえでの連携体制構築。
- ・ 獣医師会との課題共有と相互協力を強化。
- ・ 行政がガイドラインを作り、ボランティアが入り易くなるようにする。

・ **Q28【やってみたい動物に関するボランティア活動】**について「お世話ボランティア」(約13%)のほか、「馴化ボランティア」(約26%)「ミルクボランティア」(約19%)「イベント等の補助スタッフ」(約11%)「保護動物の一時預かり」(約9%)「地域猫活動」(約3%)など、多岐にわたる内容についてやってみたいと回答した方がいる。



<地域猫活動(猫捕獲時)風景>

#### 支援等の充実

- ・ ミルクボランティア, 看取りボランティア, TNRボランティアへの金銭的な支援の充実。
- ・ ボランティア, 行政と連携する事業者(動物取扱事業者を含む)を増やし, 全体で課題認識できる風土を醸成。
- ・ 無償で活動するボランティアにどこまでお願いするのかを明確にするための, 制度や方向性の確立。
- ・ ボランティアではなく, 有償でお願いする体制の構築(例: 地元企業との連携, CSR活動)



<地域猫活動(猫捕獲時)風景>

# 3. 犬猫等を飼育する高齢者,さまざまな事情を抱える方

## 課題解決のための方向性 (案)

高齢者等が  
取組みやすい  
適正飼育の推進

動物を飼育する高齢者等  
への福祉的支援の充実

## 課題解決のためのアイデア

- ・すべての世代が動物との暮らしを楽しめる仕組みづくり。
- ・高齢者による動物飼育の支援方法の検討。見守る体制整備の構築。
- ・飼育が困難な動物について、相談先を整理し紹介できる体制を整備。

- ・福祉・高齢者部門との連携の強化・制度化による人とペットのセーフティネットの確保。
- ・高齢者による動物飼育の支援方法の検討。
- ・ボランティアや民間事業者など、関係部署以外のところとの平時からの連携。
- ・シェルターや老犬ホームの設置。
- ・人の福祉との連携。

・👉Q5【健康上または生活上の事情でペットの世話が困難になった場合、利用したいサービスはなんですか】との設問について「ペットホテルなど一時的な預かり」(約40%)「老犬・老猫ホームなど、ペットを引き取り、亡くなるまで世話をしてくれるサービス」(約34%)「ペットシッターなど、ペットの世話を代行してくれるサービス」(約33%)と回答した方がいる。

# 4. 防災体制

## 課題解決のための方向性（案）

### 自助の促進

## 課題解決のためのアイデア

- ・ 動物取扱事業者やボランティアが焦ることなくスムーズに動ける体制づくり。
- ・ 避難場所の周知を徹底。
- ・ 猫の室内飼育の徹底と、犬猫へのマイクロチップ装着の徹底。



<マイクロチップ>

### 共助の推進

- ・ 市内全体ではなく、まずは近くの動物病院との連携など、地域ごとに対策を考える。

### 公助の強化

- ・ 災害時を想定した動物救護体制のシミュレーション，訓練の実施
- ・ 市内や県はもとより近隣都県との協力体制や連携について検討。平時からの顔が見える体制，関係性の構築。
- ・ （過去の震災での混乱を踏まえた）猫の飼育調査の実施。 ・ 猫の登録制度の検討。

## 5. 犬猫等の不適切飼育, 餌やり

### 課題解決のための方向性 (案)

### 適正な飼育・管理の徹底

### 課題解決のためのアイデア

- ・ 適正飼育について, 飼い主への計画的・効率的な情報提供の実施。
- ・ 苦情対応について, 苦情が多い傾向にある地域を把握するために, 件数等データを正確に処理し, 重点的, 計画的に対応するような体制づくり。
- ・ ケアマネージャーやケースワーカーとの事前からの連携体制の整備。
- ・ 猫への餌やり = 不妊去勢手術が必要との徹底した意識づけの実施 (例: 町会で耳カットのない猫を把握したら, すぐに手術につなげるなど)。
- ・ 現場の声を取り入れた不適切飼育に対する条例化等による罰則の適用。
- ・ 福祉分野の方たちとの積極的な関係性づくり。人の福祉との連携。
- ・ 犬を外飼いする飼い主への室内飼い推奨。

・ **Q26【人と動物が住みやすい柏市を目指すために取組んでほしいこと】について「ルールを守らない飼い主への指導」と回答した方が約57%, 「正しい飼い方の啓発」と回答した方が約51%いる。**



<事務所での電話相談風景>

# 6. 動物愛護教育

## 課題解決のための方向性（案）

### 教育機会の確保

## 課題解決のためのアイデア

- ・生涯学習講座などで多くの市民が「動物との正しい関わり方」を学ぶ機会の確保。
- ・小学校，中学校向けカリキュラムに，「命の尊さについて学ぶ機会」などを設け，センターが関わる。
- ・施設見学や職場体験を通じた，動物の適性飼育について学ぶ機会の提供。
- ・動物愛護活動に取り組む高校生や大学生の部活やサークル活動に，センターも協力。
- ・獣医師や獣医師会との連携。
- ・🗣️ Q26【人と動物が住みやすい柏市を目指すため取り組んでほしいこと】について，「子ども達への動物愛護に関する教育」と回答した方が約16%いる。



### 教育内容の見直し

- ・生体動物を使わない教育プログラム（例えばRSPCAが提供するものなど）を導入する自治体の取り組みを参考に検討。
- ・生体を使う場合には，獣医師の監視のもと行うなどの工夫。
- ・子ども達＝未来の飼育者とし，模範的な飼い主を育てるイメージの教育の実施。

## 7-1. 狂犬病予防法及び所有者明示

### 課題解決のための方向性（案）

狂犬病予防法に基づく登録の徹底

所有者明示、  
マイクロチップ装着の推進

狂犬病予防注射接種の徹底

### 課題解決のためのアイデア

- ・ デジタルサイネージやSNS，メール，LINEを利用した周知啓発
- ・ 動物病院と連携した周知啓発
- ・ 注射済票のワンストップ交付と集合注射の在り方の検討



## 7-2. 動物取扱事業者

動物取扱事業者の監督・指導  
の徹底

- ・ 年間計画に基づいた監視指導
- ・ 違反事業者を出さない取組の検討
- ・ Q26 【人と動物が住みやすい柏市を目指すため取り組んでほしいこと】  
について、「ペットショップなどの事業者に対する指導・規制の強化」と回答した方が約23%いる。



## 7-3. 特定動物

特定動物飼育者への監督・指導  
の徹底

- ・ 年間計画に基づいた定期的な監視指導の徹底

## 7-4. 動物由来感染症

動物由来感染症の周知・啓発  
の徹底

- ・ 動物病院と連携した周知啓発

# 8. センターのあり方

## 課題解決のための方向性（案）

認知度の向上

センター機能の強化

## 課題解決のためのアイデア

- ・ SNS等を利用した周知
- ・ 路上看板の設置
- ・ 駅前へのサテライト設置

- ・ センターにおける地域猫手術の実施。
- ・ 団体，ボランティア等の活動拠点，学習スペースとしての活用。
- ・ エントランスホール，フィールド等空きスペースの有効活用（例：災害用備蓄倉庫，休憩所）



## 7 意見交換

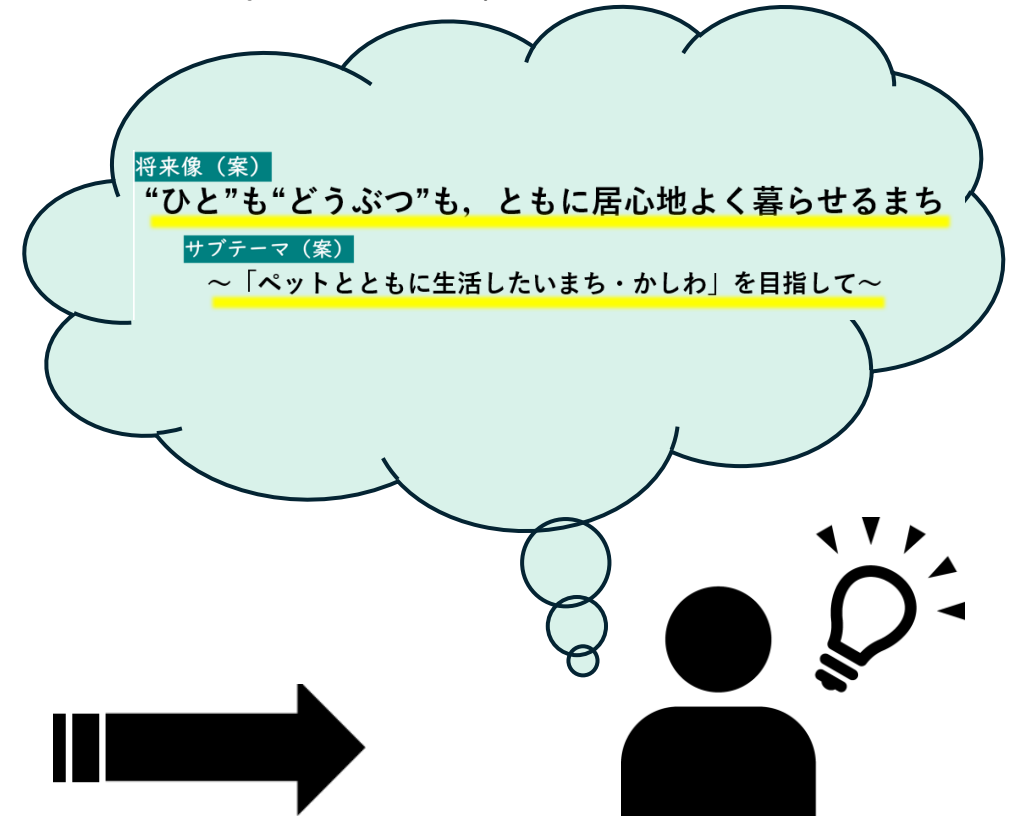
---



# いただきたいご意見の視点

✓ 「課題解決のための方向性」を踏まえた、  
各課題項目を解決するための“アイデア”を教えてください。

課題項目	課題解決のための方向性(案)
1. 人と動物の健康・安全	本計画の対象動物の明確化 動物の健康と安全の確保 殺処分をしない柏市の継続 譲渡の促進 センター職員の人材育成の充実
2. ボランティア・事業者・行政	連携の推進 支援等の充実
3. 犬猫等を飼育する高齢者、さまざまな事情を抱える方	高齢者等が取り組みやすい適正飼育の推進 動物を飼育する高齢者等への福祉的支援の充実
4. 防災体制	自助の促進 共助の推進 公助の強化
5. 犬猫等の不適切飼育、餌やり	適正な飼育・管理の徹底
6. 動物愛護教育	教育機会の確保 教育内容の見直し
7 -1 狂犬病予防法と所有者明示/ 8 センターのあり方	7-2 動物取扱事業者 / 7-3 特定動物 / 7-4 動物由来感染症 認知度の向上 センター機能の強化





## 8 次回以降の予定等

---

# 第3回懇談会の内容案（令和8年6月予定）



- ✓ 前回の振り返り
- ✓ 未来ビジョン素案について
- ✓ 事務連絡

※なお、第3回懇談会を開催するまでの間に、①ご意見の補足 ②議事録内容確認 ③市民アンケートのご意見・ご質問 に関してメールで御連絡をさしあげますので、御確認のほどよろしくお願いたします。